

## 病害虫発生予察特殊報 第 2 号

### ネギハモグリバエ別系統の発生について

#### 佐賀県

1. 病害虫名：ネギハモグリバエ（別系統）  
*Liriomyza chinensis* Kato



2. 発生作物：ネギ

3. 発生の経過と概要

令和元年 12 月 26 日に、県内の露地ネギほ場において、従来のネギハモグリバエによる被害とは異なり、葉が激しく食害され、白化する症状を確認した（写真 1）。そこで、当ほ場から幼虫および蛹を採取し、農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門 野菜病害虫・機能解析研究領域（虫害ユニット）に遺伝子解析を依頼した結果、従来から発生しているネギハモグリバエの系統（以下、A 系統）とは異なる本虫の別系統（以下、B 系統）と同定された。

B 系統の発生は、国内では平成 28 年に京都府で初めて確認され、その後、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県および東京都の計 13 都府県で発生が確認されている。

4. 形態

形態による A 系統と B 系統の識別は困難である。両系統とも成虫の体長は約 2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（写真 2）。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長は約 4mm に達し、蛹は体長約 3mm の俵状である（写真 3）。

5. 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹になる。

A 系統は、県内では 5 月頃から秋頃を中心に発生する。系統間の生態的差異は、まだ解明されていないが、B 系統についても、ほぼ同様の期間に発生すると考えられる。

また、A 系統は、ネギをはじめ、タマネギ、ニラ等のユリ科ネギ属植物を食害するが、B 系統は、現在のところネギのみで確認されている。

## 6. 被害

B系統の初期の食害痕は、A系統と同様、不規則な白線状を示すが、A系統に比べ1葉当たりに寄生する幼虫数が多く、複数の幼虫が葉肉を食害するため、近接した食害痕同士が癒合し、葉が白化した症状を呈する（写真1、4）。

## 7. 防除対策

- (1) 両系統の形態での識別が困難なため、発生を認めたら、系統にかかわらずネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉および収穫残さは本虫の発生源となるので、ほ場に放置せず、1ヶ所にまとめて積み上げ、ビニル等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。



写真1 幼虫による葉の食害症状1  
(令和元年12月26日撮影)



写真2 成虫（体長は約2mm程度）  
(写真2は、愛知県農業総合試験場提供)



写真3 被害ほ場から採取した蛹  
(令和元年12月27日撮影)



写真4 幼虫による葉の食害症状2  
(令和元年12月27日撮影)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター  
病害虫防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088  
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085